
FY2026 FULL-YEAR RESULTS

2026年5月期 決算説明資料

オークションハウスから、アート×金融プラットフォームへ。

通期は営業赤字も、第4四半期に営業黒字へ転換。構造改革は着実に前進

シンワイズホールディングス株式会社（東証スタンダード：2437） / 2026年7月15日

本資料の将来に関する記述は作成時点の見通しであり、達成を保証するものではありません。

第4四半期に黒字転換を達成。構造改革は初期フェーズで着実に前進

01 第4四半期 営業黒字へ転換

営業損益 +97百万円（黒字転換）。第4四半期のオークションが想定を上回ったことが寄与。

02 構造改革は初期フェーズで成果

営業損失△144のうち58は期末の個別査定による在庫評価損。これを除くと△86に相当。

03 通期は営業赤字（△144）

うち58は期末の個別査定による在庫評価損（売上原価に計上）。

04 FY2027は業績予想の達成を目指す

売上2,335／営業+150百万円（中期経営Vision 初年度）。黒字化・回復へ。

KEY FIGURES (FY2026)

第4四半期の黒字化と、通期実績の全体像

第4四半期 営業損益

+97

百万円

黒字転換

通期 売上高

1,577

百万円

前期比 △23.7%

通期 営業損益

△144

百万円

うち在庫評価損58（個別査定）

自己資本比率

59.6

%

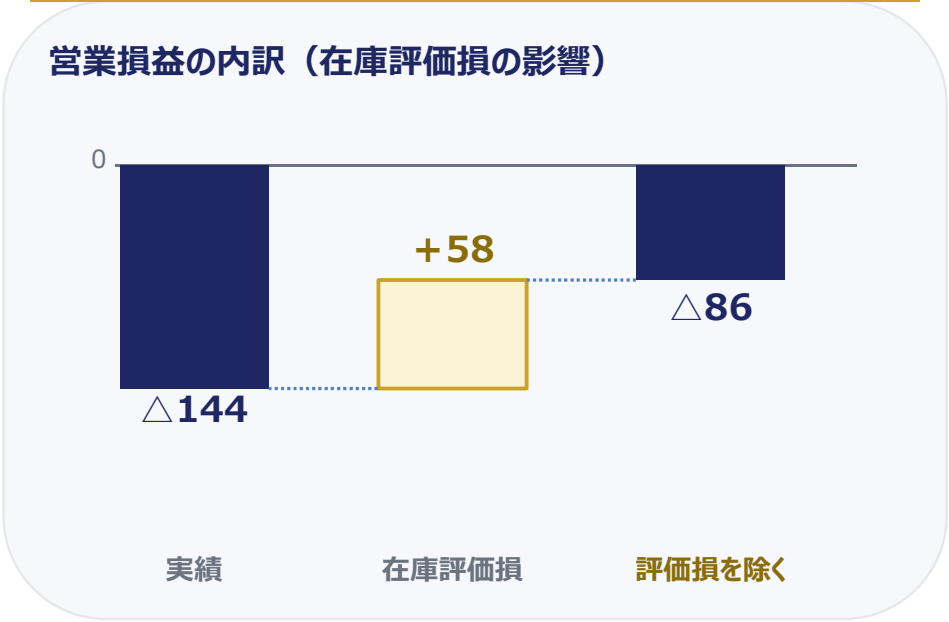
前期末 70.7%

サマリー

営業損益は四半期を追うごとに改善し（△203→△38→±0→+97）、第4四半期に営業黒字へ転換。通期は営業損失△144（うち期末個別査定の在庫評価損58、除くと△86に相当）も、構造改革は初期フェーズで着実に前進。FY2027は中期経営Vision初年度として営業黒字化を目指す。

通期は営業損失△144 — うち58は期末の個別査定による在庫評価損

(百万円)	前期	当初予想	実績	前期比
売上高	2,067	2,312	1,577	△23.7%
営業損益	12	80	△144	—
経常損益	△17	80	△161	—
純損益	△142	55	△237	—



※ 在庫評価損58は、期末に個別の査定により計上した長期滞留品等の棚卸資産評価損（売上原価に計上）。「評価損を除く △86」は、営業損益の実績から当該評価損の影響のみを除いた参考値であり、実績値と併せて参照。毎期規則的に実施している評価減は上記に含まれず、除外もしていない。（単位：百万円）

新体制移行を起点に、第4四半期は営業黒字へ転換

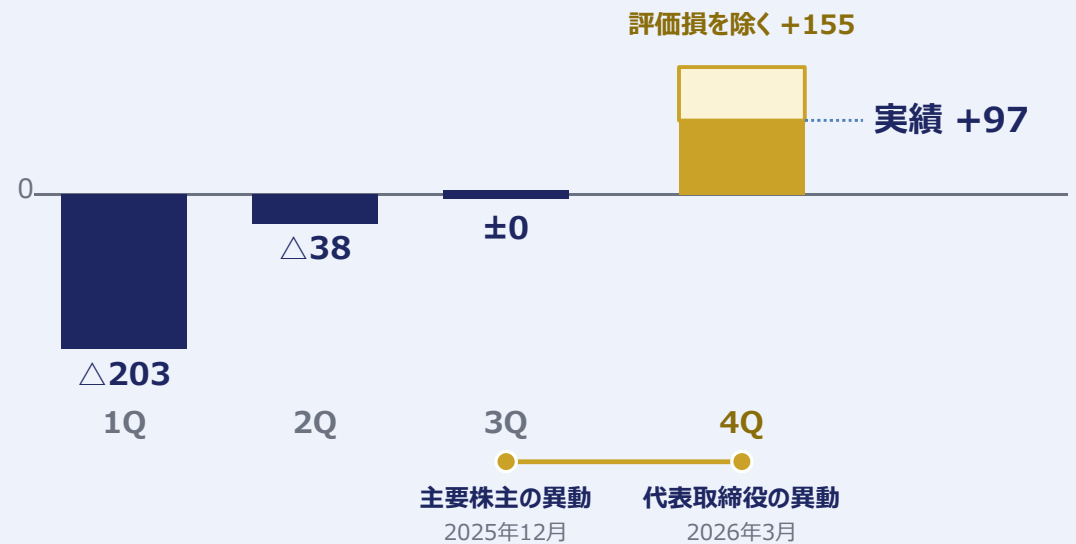
第4四半期 営業損益

+97

百万円 / 黒字転換

新経営体制のもと構造改革を推進し、四半期単独で営業黒字へ転換（在庫評価損58を除くと+155）。FY2027の構造改革完了と、業績予想の達成を目指す。

FY2026 四半期 営業損益



高い自己資本比率と手元流動性 — 健全な財務基盤を維持

自己資本比率

59.6

%（期末）

現金及び預金

1,008

百万円（期末）

純資産

2,110

百万円（期末）

財務方針

通期赤字下でも高い自己資本比率と手元流動性を維持。健全な財務基盤のもと、構造改革の完遂と中期経営Visionの実行を支える。

FY2027に構造改革を完了し、FY2028から成長フェーズへ移行する

中期経営Visionの3本柱（①既存立て直し+コレクティブ横展開 ②アート×金融 ③グローバル化・テクノロジー）を3つのフェーズで実行する。

PHASE 1

立て直し

FY2026下期-FY2027

- ・費用構造改革・不採算の整理（4Qに黒字化）
- ・仕入強化・外国人顧客拡大・PS拡張
- ・アート金融の事業部設立・貸金業登録の取得、コレクティブ横展開の準備・試行

PHASE 2

本格化

FY2028

- ・アート担保ローンの運用開始（小規模から検証）
- ・AI査定・真贋証明「Shinwa Cert.」の実装
- ・コレクティブ拡大・海外有力ハウスとの提携協議

PHASE 3

確立

FY2029

- ・海外市場での売買・提携の確立
- ・プラットフォームとしての収益基盤の確立
- ・再現性ある成長へ

査定・売買・金融・テクノロジーを束ねたプラットフォームへ

オークションで培った査定・換価力を基盤に、動産担保ローンで利息（ストック）収益を構築する。詳細は本日開示の中期経営Visionを参照。

既存

売買

オークション・PS

美術品の売買（競売・相対）。出品者と購買者をつなぐ既存の中核。

新規

アート金融

動産担保ローン

美術品・宝飾・時計・ワイン等を担保に資金提供。ストック収益を新設。

基盤

査定・換価力

37年蓄積の査定DB

査定データベースで合理的にLTVを算定。デフォルト時は自社オークション等で換価。

展開

テクノロジー

AI査定・真贋証明

AI査定を初期査定に活用。ブロックチェーン真贋証明「Shinwa Cert.」を実装・外部提供へ。

独自の基盤（差別化）

37年蓄積の査定データベース、オークションによる換価力、富裕層ネットワーク — 金融機関単独では模倣が難しい領域。

GUIDANCE & MEDIUM-TERM PLAN

FY2027業績予想の達成を目指し、営業利益を段階的に拡大

FY2027 業績予想

(中期経営Vision 初年度)

売上高

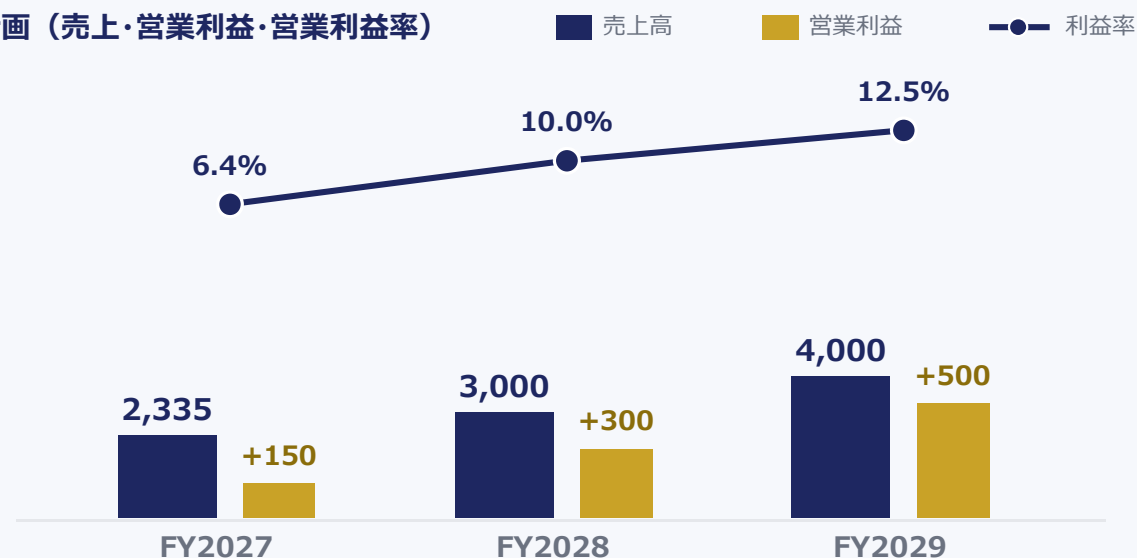
2,335

営業利益

+150

通期黒字化・回復を目指す（百万円）。

計画（売上・営業利益・営業利益率）



※ FY2027は業績予想に相当する計画値、FY2028～FY2029は経営目標であり、いずれも将来の達成を保証するものではありません。FY2028～FY2029の経営目標は所要資金の確保を前提とし、FY2027は新たな資金調達を前提としていません。詳細は本日開示の中期経営Visionを参照。

TOWARD FY2029

オークションハウスから、 アート×金融プラットフォームへ。

信頼を礎に、再現性ある収益基盤を構築する。

立て直し（FY2026下期–FY2027） → 本格化（FY2028） → 確立（FY2029）

シンワワイズホールディングス株式会社（東証スタンダード：2437）